

甚目寺中央児童館

【活動内容】

- ・幼児事業では、親子で一緒に活動できる遊びを多く用意し、親子での関りを楽しめる機会となるようにしていった。また、体操や手遊びの際は子どもも前に出て一緒に演じてもらったり、新しい遊びのデモンストレーションに参加してもらったりすることで、子どもの積極性を発揮できるようにしていった。また、ふれあい遊びや工作遊びは、簡単ですぐに覚えられるものを用意することで、家庭でも児童館の活動をして楽しんでもらえるようにした。
- ・小学生事業の工作遊びや運動遊び・集団ゲーム等では、難しくてもすぐに諦めず粘り強く取り組んだり、目標を達成する為に友達と協力したりできるように、コロナ禍での感染対策に配慮したうえで、工夫や協働の必要な活動を用意した。

【反省・課題】

- ・幼児事業では、親子のふれあい遊びを多く取り入れることで、とてもたくさんの笑顔が見られ、子どもも保護者も積極的に遊ぶ姿が見られた。乳児の兄弟連れで参加されている親子には、厚生員が下の子を見ることで、上の子と保護者が十分に遊びを楽しめるよう手伝うようにした。コロナ禍の中、利用者同士で関りをもつ集団ゲーム等はできなかったが、ウィズコロナの状況で、適切な感染対策をとりながら利用者同士での関わりも楽しめる遊び・活動を用意することを今後の課題とする。
- ・小学生事業は、制作活動では見本を作る過程や完成品を見せることで、関心や意欲につなげていった。集団ゲームや運動遊びでは、活動について基本的な説明をした後は、より遊びを楽しむ為の話し合いや協力ができるよう仲立ちしながら、子ども達が主体的に活動を進めていくことで、楽しみながら他者との関わりや社会性を経験できるようにしていった。遊びに夢中になりルールを守れない様子も見られたので、ルールを守って活動を楽しめるよう指導することを今後の課題とする。

【次年度へ向けての方針】

コロナ禍が依然として続いている中感染対策にも十分配慮しながら、ウィズコロナの状況下で利用者が楽しめる活動を用意していく。

- ・親子のふれあい遊びを多く取り入れることで、子どもは親の愛情を、親は子どもの愛おしさを互いに再確認し、十分味わえる機会にしていく。また、年間を通し少しずつ活動の難易度を上げていくことで心身の成長を図り、子どもの成長を皆で喜べる場としていく。
- ・利用者の多様な価値観や個性に配慮し利用者の意見も聞き参考にしながら、児童館の役割やルールについて分かりやすく知らせながら理解を求めていき、全ての利用者に楽しく児童館を使ってもらえるようにしていく。